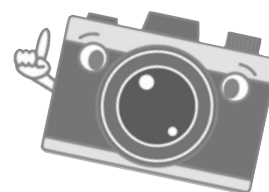


祝！日本遺産認定！



▲陸前高田市 岡本副市长（左）、涌谷町 佐々木教育長（中央）、南三陸町 最知副町長（右）

南三陸町・気仙沼市・涌谷町、岩手県の陸前高田市・平泉町の2市3町が申請していた「みちのくの金」に関する文化・歴史「みちのくGOLD浪漫—黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる—」が令和元年度の日本遺産に認定されました。

5月20日(月)に東京・上野の東京国立博物館で日本遺産認定証交付式が行われ、永岡文部科学副大臣から認定証が授与されました。

「みちのくGOLD浪漫」は「みちのくの金」に関わる43件の文化財で構成され、日本初の産金から1250年以上にわたる産金史を体感することができます。

南三陸町では、「田東山経塚群」と「紺紙金泥大般若経」が日本遺産の構成文化財として認定されました。

「田東山経塚群」は田東山の山頂に築かれた塚で、お経を未来に残すため、塚の中に納めました。「紺紙金泥大般若経」は金の字で書かれた経典で、中尊寺に残る紺紙金泥一切経の一巻と伝えられるものです。どちらも金色堂で有名な奥州藤原氏との関わりが深く、金との深い縁を感じさせる文化財です。

2つの構成文化財については、来月の広報で詳しく紹介します。



「日本遺産 (Japan Heritage)」とは？

地域の歴史的の魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。地域の魅力ある文化財群を総合的に活用し、国内だけでなく海外へも発信していくことにより地域活性化を図ることを目的としています。